

いきいき健康術 第60回

『蜂に刺されたら』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。
今回の担当は京丹波町病院外科部長の庄林智先生。
蜂に刺された際の対処方法などのお話です。

現

在日本には大きく分けてミツバチ・足長バチ・スズメバチの三種類が生息しています。刺された時のそれぞれの症状と対処法を紹介します。

●ミツバチ

刺された時は痛みを伴いますが、痛みそのものはすぐに治まります。刺された患部に針が刺さって残っているので抜きましょう。

●アシナガバチ

ミツバチに刺された時よりも大きな痛みと、大きく赤い腫れが症状として残ります。また重症の場合、じんましん・発熱・嘔吐などの症状がみられます。

●スズメバチ

激痛が走り患部から広範囲に赤く腫れます。重症の場合、発熱、嘔吐、呼吸困難、肝機能障害が起きます。

応急処置としては、どの蜂に襲われた時でも近くに巣があるかもしれないので、早急にその場所を離れることが先決です。そして刺された箇所の周囲を強くつまんで毒を出すか、吸い出しましょう。吸い出した毒は吐き出してください。そして流水で洗い冷やしましょう。蜂に刺されたら小便(アンモニア)をかけるとうまいと聞いたことがあるかもしれませんが、これは俗説であ



しげのやし ちとし
外科部長 庄林 智 先生
(京丹波町病院)

り効果はありません。

刺された蜂によって症状は違いますが、どの蜂に刺されてもアナフィラキシーショックという呼吸困難、血圧低下やけいれんなどの急激な全身アレルギー症状を起こすことがあり、放置すると死に至ることがあるので、早急に病院に行き治療を受ける必要があります。スズメバチなどに刺されて一度でも蜂毒によるアレルギー反応を起こしたことがある人は、蜂に刺されないように注意することが大切です。そのような方で野山で作業をする機会が多い場合、万が一に備えて医療機関を受診し、アナフィラキシーの症状を緩和する自己注射用エピネフリン注射液(商品名エピペン)を常に携帯するのがよいでしょう。

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎86-0220